



▲放水を行う隊員

訓練の成果を発揮！

県女性消防操法大会

8月4日、「第3回熊本県女性消防操法大会」が菊池市総合体育館駐車場で開催され、本市から市消防団・女性消防隊が出場しました。大会には、県内14市町村から15チームが参加。参加チームは6人1組（補助員を含む）で、軽可搬ポンプを用的へ放水し、タイムや動作の正確性などを競いました。出場した隊員たちは、「3位以内の入賞はできませんでしたが、訓練の成果を発揮できました。また次回も挑戦したいです」と話していました。

黄色に色づいた花を観賞

はまぼう祭り

新和町の大宮地・小宮地地区にまたがって広がる日本最大級の“はまぼう群生地（約4ha）”一帯で7月21日から同28日まで、『第1回はまぼう祭り』が開かれました。新和まちづくり協議会が開花時期にあわせて開催したもの。期間中は、天草自然公園ボランティア協会の会員が来場者を対象に群生地を案内しました。

同28日には、はまぼうの研究で有名な長崎大学の中西弘樹名誉教授がガイド役となり、群生地周辺を散策する「はまぼうウォーク」が行われ、70人が参加。参加者は5kmを歩くコースと、ボートに乗って川から眺めるコースに分かれ、黄色に色づいた花を観賞していました。



▲花を眺めながら歩く参加者

このほか、踊りの披露やお笑いショーなどのステージイベントがあり、期間中は約800人の人出でにぎわいを見せていました。

社会人としての責任を持ちます！

牛深地域成人式

8月16日、「牛深地域成人式」が牛深総合センターで開かれ、新成人160人が出席しました。同地域では毎年、お盆の帰省時に成人式を開催するため、浴衣姿で参加する新成人も多く見られます。式典では、安田市長が「皆さんの若い力と行動力に大いに期待しています」とあいさつした後、新成人を代表して愛甲彩絵さんが「社会人としての責任を胸に、勇気と信念を持って行動します」と宣言。式典終了後は、互いの近況を報告しあったり、記念撮影をしたりする姿が見られました。



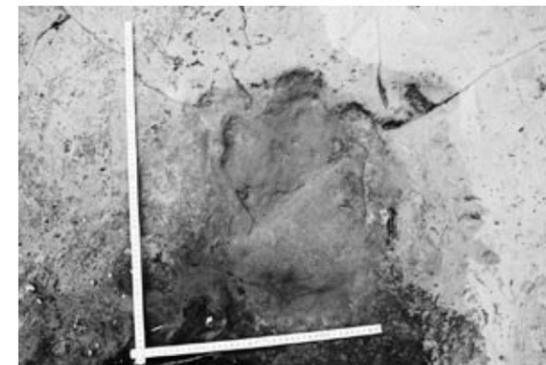
▲成人者宣言をする愛甲さん

天草にゾウやサイがいた！

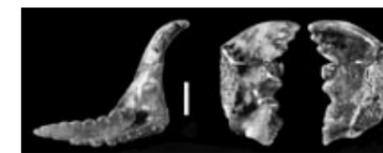
貴重な化石を多数発見

御所浦白亜紀資料館は7月17日、4月に五和町内の海岸で発見された多数の足跡化石が、天草では初、県内では2例目とみられる“ゾウ類やシカ類の足跡化石”と、県内初とみられる“サイ類と鳥類などの足跡化石”であると発表しました。化石研究家の北林栄一さん（大分県）が、同海岸に分布している口之津層群佐伊津層（約300万年から200万年前）で発見。天草にゾウやサイがいたことを物語る貴重な発見となりました。

このほか、同資料館と岐阜県瑞浪市化石博物館は8月1日、同町御領地区にある小串層（第四紀更新世・約24万年前）の共同調査で発見された化石が、国内初とみられる“シャコ類の大顎”（人間の歯にあたる部分）であると発表。これらの化石は同資料館で展示中です。



▲ゾウ類と見られる足跡の化石（長さ約36cm・幅約35cm）



▲シャコの大顎化石（白い線は長さ2mm）

間の歯にあたる部分）であると発表。これらの化石は同資料館で展示中です。

昔の人の知恵を後世に伝える

歴史と地形を学ぶ講座を開催

8月4日、「倉岳学講座」が倉岳多目的研修会施設で開かれ、町内外から112人が参加しました。倉岳地区公民館が開催したもので、御所浦白亜紀資料館の長谷義隆館長が、“倉岳町の自然の成り立ちと文化的景観～ジオパークの視点で語る「倉岳学」と題して講演。「“こぐり（農業用水路）”“石垣”は昔の人の知恵であり、私たちが認識し後世に伝えていくものである」と話され、参加者は熱心に聞き入っていました。



▲講演を行う長谷義隆館長

世代を越えて楽しく交流

多世代交流事業

栖本町内に住むお年寄りや親子など60人が参加して7月28日、「多世代交流事業」が栖本地区コミュニティセンターで開かれました。同地区振興会が、地域内のコミュニケーションをより深めてもらおうと初めて開催したもの。

参加者は、菊陽町のボランティアグループによる人形劇を観賞したほか、竹とんぼや紙飛行機づくり、お手玉遊びなどを実施。歓声や笑い声があがるなど、世代を越えた交流を楽しんでいました。



▲お手玉遊びをする参加者